

令和8年度 第2回

鴻巣市総合振興計画審議会

会議次第

第2回審議会 3議題 (1)基本構想(案)①について

①「序論」について

②「第1章 将来都市像」について

3 (1) ①「序論」について

議 題

●第2回審議会における審議事項

赤枠:第2回での説明・審議範囲

青枠:第3回での説明・審議範囲

「序論」で整理した鴻巣市の現状分析や、そこから見えてきた課題・強みを踏まえ、第7次総合振興計画の根幹となる「基本構想」のうち、「**将来都市像**」及び「**基本理念**」の方向性を審議

●「序論」⇒資料2参照

●「基本構想」⇒資料3参照

第1章 総合振興計画の概要

第2章 市の特性

第3章 鴻巣市を取り巻く時代動向・潮流

第4章 市の現状

第1章 将来都市像

第2章 将来人口

第3章 土地利用構想

第4章 政策展開の方向

今回の説明事項

- 第7次総合振興計画策定の背景(時代動向・現状分析・6次総振の検証)
- 人口減少社会への対応(スマートシュリンク(縮充)の考え方)
- 「将来都市像」とその実現に向けた「基本理念」の検討

3 (1) ① 「序論」について

「序論」とは

第7次総合振興計画の基本構想を検討するための背景となる基礎的な資料

計画概要

計画策定の趣旨や基本姿勢を示し、7次総振の考え方や進め方を整理
⇒策定主旨、基本姿勢、計画構成・期間、行政評価・成果指標

現状分析

市を取り巻く環境や現状を把握し、課題や強みを整理
⇒市の特性、時代動向・潮流、人口・財政・産業、市民意識、6次総振の検証

方向性

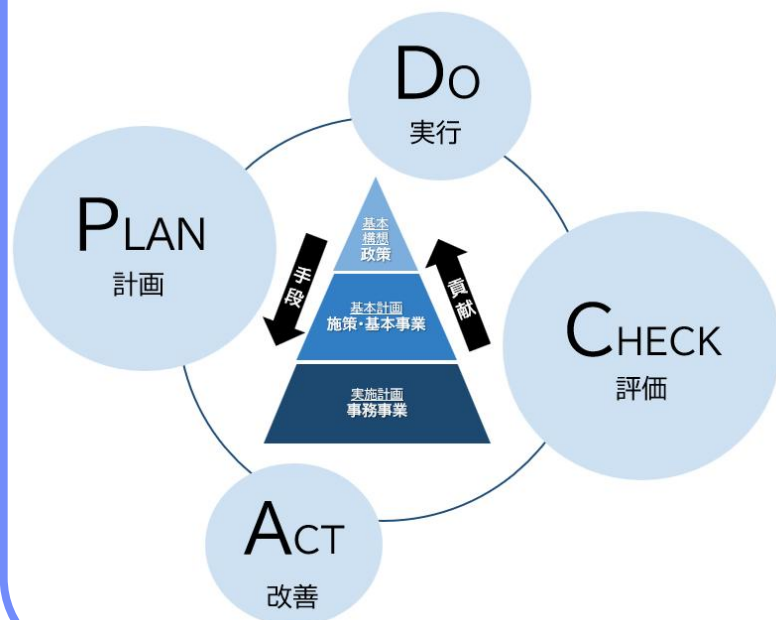
分析結果を踏まえ、将来都市像や基本理念の考え方を整理
⇒今後、10年間のまちづくりの方向性を示す。

計画概要で考え方を整理し、現状分析で課題や強みを把握し、その結果を踏まえて7次総振における**まちづくりの方向性**を検討する。

計画概要

- ・策定主旨、基本姿勢、計画構成・期間については、第1回審議会で説明
- ・計画は策定して終わりではなく、成果を確認しながら改善を続ける。

➡ 実現に向けた取組として行政評価を実施



成果重視の計画運営

- ・成果指標を設定(PPLAN)
- ・施策・事業を実施(DO)
- ・成果を見える化、評価、課題抽出(CHECK)
- ・改善・見直しへ反映(ACT)



※詳細は資料2 P5～6を参照

行政は利益ではなく市民生活の向上を成果とするため、成果指標を活用して評価・改善を進め、計画の実効性を高めていく。

現状分析(時代動向・潮流)①

人口減少や社会環境の変化により、自治体を取り巻く状況は大きく変化している。

人口減少 少子高齢化	・人口減少と少子高齢化が進行し、人手不足への対応が求められている。 ・人口規模が縮小する中でも持続可能な地域づくりが必要となっている。
安全 安心	・災害の激甚化や感染症などに備え、レジリエンスの強化が求められている。 ・防犯やこどもの安全確保など、身近な安全・安心への関心が高まっている。
多様性	・高齢者や若者、女性など誰もが活躍できる環境づくりが求められている。 ・外国人を含め、多様な人々が支え合う多文化共生の取組が重要となっている。
情報技術	・DXやAI、データ活用など、デジタル技術の活用が広がっている。 ・利便性の向上とともに、情報格差や情報セキュリティ対策が求められている。

人口構造や価値観、技術の変化により、従来のまちづくりの考え方だけでは、対応が難しくなっている。

※詳細は資料2 P10～P13を参照



人口減少社会を前提とした持続可能なまちづくりへの転換が求められている。

現状分析(時代動向・潮流)②

人口減少や社会環境の変化を受け、自治体経営に求められる役割も変化している。

インフラ 更新	・公共施設やインフラの老朽化が進み、計画的な更新・最適化が求められている。 ・限られた財源の中で、効率的な維持管理が必要となっている。
環境 脱炭素	・気候変動や自然環境の保全など、環境問題への対応が求められている。 ・SDGsに続く、持続可能な取組が重要となっている。
地域経済	・人口減少や高齢化により、担い手不足など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増している。 ・地域資源を活かした付加価値創出や地域経済の活性化が求められている。
共創型行政	・地域課題の複雑化により、地域全体で課題解決に取り組む必要性が高まっている。 ・官民連携による持続可能な地域づくりが求められている。

暮らしの質と地域の活力を将来にわたり維持することがこれまで以上に難しくなっている。

※詳細は資料2 P10～P13を参照



限られた資源の中で、暮らしの質と地域の活力を維持するまちづくりが求められている。

現状分析(6次総振の成果と課題)①

市民意識から見る評価(詳細は第1回審議会で説明)

項目	状況	総括
住み良さ	・住み良い(54.8%):令和7年度 ・10年間で微増:平成28年度～令和7年度	一定の水準を維持
定住意識	・住みつづけたい(72.8%):令和7年度 ・10年間で上昇:平成28年度～令和7年度	上昇傾向
満足度	・平均点は10年間で概ね横ばい:平成28年度～令和7年度 ・高評価、低評価分野は固定化	課題が継続
重要度	・平均点は10年間で上昇:平成28年度～令和7年度 ・上位分野は大きく変化していない	市民ニーズは継続

※詳細は資料2 P24～P27を参照



市民意識からは、住み良さや定住意識の向上など一定の成果が見られる一方、市民ニーズや課題も継続している。

現状分析(6次総振の成果と課題)②

政策・施策から見る評価(令和6年度実績時点)

項目	状況	総括
施策の成果 (28施策47指標)	・向上している(27指標:57.4%) ・低下している(19指標:40.4%)	一定の成果
基本事業の成果 (105事業220指標)	・向上している(129指標:58.6%) ・低下している(77指標:35.0%)	一定の成果
施策の達成度 (28施策47指標)	・達成した(13指標:27.7%) ・達成度(低)(19指標:40.4%)	目標未達・多
基本事業の達成度 (105事業220指標)	・達成した(64指標:29.1%) ・達成度(低)(76指標:34.5%)	目標未達・多

主な成果分野:保健・福祉・医療、市民協働・行政運営 主な課題分野:都市基盤

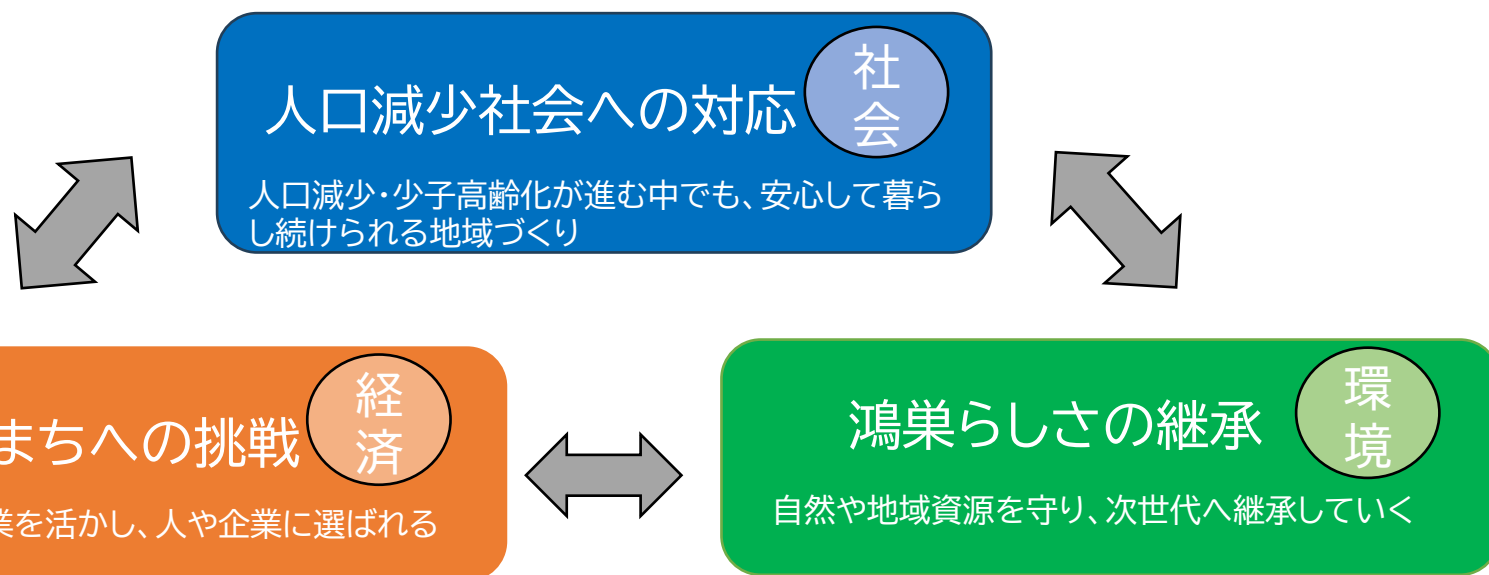
※詳細は資料2 P37～P40を参照



各施策・基本事業において、一定の成果は確認できるものの、目標達成に至らない分野もあり、課題は次期計画へ引き継がれる。

方向性

序論で整理した時代動向、市の現状及び6次総振の検証結果を踏まえると、今後のまちづくりにおける課題や強みは、次の3つの方向性に集約される。



人口減少社会を前提に、地域の機能や暮らしの質を維持・向上「**スマートシュリンク(縮充)**」の考え方のもと、3つの方向性を7次総振の基本理念へとつなげていく。

なぜ、「将来都市像」を変えるのか？

- ・市が目指す将来の姿を示し、計画全体の方向性を示す指針
- ・時代背景や地域課題を踏まえた、今後10年先の理想の姿

➡ 将来都市像により、まちづくりの方向性を市民の皆さんと共有する。

第6次鴻巣市総合振興計画 (計画期間:平成29年度～令和8年度) 将来都市像

「花かおり 緑あふれ 人輝くまち こうのす」



『「花」につつまれ、豊かな「緑」の環境の中で、まちを支える「人」が輝きながら住み続けることができるまちを創る』という理念が込められている。

- ・1市2町の合併に伴い計画された「新市建設計画」において設定された将来都市像(平成17年)
- ・新市として初めて策定した5次総振(平成19年度～平成28年度)においても設定
- ・6次総振においても継承すべき姿として引き続き設定

合併から20年、新市の発展を支えるまちづくりの指針として継承されてきた将来都市像

将来都市像は、その時代におけるまちづくりの課題や目指す姿を象徴するもの。
7次総振では、人口減少社会への対応や新たな地域課題を踏まえ、将来都市像を改めて検討する。

7次総振における将来都市像(案)は？

第7次鴻巣市総合振興計画（計画期間：令和9年度～令和18年度）

・今後10年間のまちづくりの方向性を示す将来都市像として、次の姿を掲げる。

将来都市像



「人にも生きものにもやさしい
選ばれるまち こうのす」

※詳細は資料3 P1を参照

将来都市像を構成する3つの視点

●将来都市像「人にも生きものにもやさしい 選ばれるまち こうのす」

人にもやさしい
社会

・人口減少社会においても、誰もが安心して暮らし続けられるまち
→ 人口減少社会への対応

生きものにもやさしい
環境

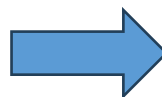
・コウノトリをはじめとした多様な生きものと共生するまち
→ 鴻巣らしさの継承

選ばれるまち
経済

・地域の魅力や地域資源を活かし、人や企業に選ばれるまち
→ 選ばれるまちへの挑戦

5次総振・6次総振
合併後の発展を目指す
新市のまちづくり

時代の変化
に対応



7次総振
人口減少社会に対応した
持続可能なまちづくり

将来都市像に込めた3つの視点を踏まえ、「社会」「経済」「環境」を柱とする7次総振の基本理念を構成する。

将来都市像を実現する3つの基本理念

将来都市像の実現に向け、まちづくりの基本的な考え方として3つの基本理念を設定する。

●「3つの基本理念」

社会

安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくり

主な取組

暮らしを支える生活基盤の充実、共創のまちづくりと効率的な行財政運営

経済

地域の魅力と産業で価値を創出するまちづくり

主な取組

地域資源の価値向上と魅力発信、既存産業の高度化と新たな産業・雇用の創出

環境

自然を守り活かし次世代へつなぐまちづくり

主な取組

田園・水辺・緑地など豊かな自然環境の保全、農地や緑地の維持・活用と地域資源の継承

※詳細は資料3 P1を参照

「社会」「経済」「環境」の3つの視点が相互に連携し、将来都市像の実現を目指す。

将来都市像の実現状況を確認する「^{すうせい}趨勢指標」

将来都市像の実現に向け、人口や経済など市全体の変化や流れ(趨勢)を確認するため「**趨勢指標**」を設定し、その状況を確認していく。

7次総振で新たに導入

「成果指標」

- ・施策の成果を測る



- ・毎年度の行政評価



- ・施策や事業の達成度を確認

「趨勢指標」

- ・まち全体の変化や流れを見る



- ・将来都市像の実現状況を確認



- ・評価というより動向を把握

7次総振では施策ごとの成果指標に加え、将来都市像の実現状況を確認するため、まち全体の変化や流れを把握する「趨勢指標」を新たに設定する。

設定する「趨勢指標」

社会・経済・環境及び行政運営(持続性)の視点から、将来都市像の実現状況を長期的に確認するための8つの趨勢指標を設定する。

1	鴻巣市の人口	117,556人	社会
2	年間自然人口増減数	△808人(出生数 633人、死亡数1,441人)	
3	年間社会人口増減数	812人(転入数4,995人、転出数4,143人)	
4	人口千人当たり市内総生産額	25億9,779万円	経済
5	人口千人当たり市内事業所数	27.4事業所	
6	市域からのCO2排出量(エネルギー起源CO2)	493.2千t-CO2	環境
7	農地面積(経営耕地面積)	1,909.3ha	
8	財政調整基金残高比率	12.1%	行政運営

※詳細は資料3 P2を参照

8つの趨勢指標により、市全体の変化や流れを継続的に確認していく。

本日の総括

今回は、序論で整理した課題や強みを踏まえ、「何を目指すのか」という視点から、将来都市像及び基本理念を整理した。

●「序論」

人口減少や社会環境の変化、6次総振の検証などを踏まえ、今後のまちづくりにおける3つの方向性を整理



人口減少社会への対応、選ばれるまちへの挑戦、鴻巣らしさの継承

●「将来都市像」

「人にも生きものにもやさしい 選ばれるまち こうのす」

将来都市像の実現に向けた基本的な考え方として、3つの基本理念を設定

社 会:安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくり

経 済:地域の魅力と産業で価値を創出するまちづくり

環 境:自然を守り活かし次世代へつなぐまちづくり

次回は「どのように実現するのか」という視点から、将来人口、土地利用構想及び政策展開の方向について審議する。

次回の審議会の予定について

第3回 鴻巣市総合振興計画審議会

【予定】 令和8年8月20日(木) 午後2時から
鴻巣市役所 1001会議室

主な議題: 第7次鴻巣市総合振興計画 基本構想(案)について②

- ・後日、正式な開催通知を送付します。
- ・会議資料を事前に送付しますので、会議までに一読をお願いします。